

コンサイメントモデル応用による 国際VMI実装事例

松下電器産業(株)

2007年11月28日

目次

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

コンサイメントモデルの位置付け(1)

JEITAで想定した取引の種類

		計画情報	個別契約		出荷業務			在庫管理				
		所要供給	予約注文	確定注文	出荷指示	出荷タイミング	受注者業務の委託先	受渡場所(所有権移転)	受注者在庫の預託先	倉庫事業者の使用	倉庫選定	
通常取引	納品代行	○	△	○	×	確定注文の納期 (必要に応じて、受注者から倉庫への出荷依頼あり)	受注者 →倉庫事業者	発注者の指定場所	倉庫事業者 (外部倉庫)	○	受注者判断	
	ジャスト・イン・タイム (JIT)	○	△	○	×	確定注文の納期	—	発注者の指定場所	—	×	—	
	所要計画・予約注文を活用した協業モデル、 所要計画を活用した協業モデル	○	○ ×	○	×	確定注文の納期	—	発注者の指定場所	—	×	—	
預託取引	コンサイメント	社内運用	○	△	△	×	発注者判断	受注者 →発注者	倉庫内に設定	発注者	×	—
		社外倉庫	○	△	△	○	倉庫事業者へ出荷指示	受注者 →発注者 →倉庫事業者	倉庫内に設定	発注者	○	発注者判断
	倉庫事業者預託 (JEITA-VM1)	○	△	△	○	倉庫事業者へ出荷指示	受注者 →倉庫事業者	倉庫内に設定 (または倉庫出し時点)	倉庫事業者 (受注者共用倉庫)	○	発注者指定	

コンサイメントモデルの位置付け(2)

新たな企業ニーズの取込み

		計画情報	個別契約	出荷業務			在庫管理						
				所要供給	予約注文	確定注文	出荷指示	出荷タイミング	受注者業務の委託先	受渡場所(所有権移転)	受注者在庫の預託先	倉庫事業者の使用	倉庫選定
通常取引	納品代行												従来の受発注情報種で対応可能(運用方法次第)
	ジャスト・イン・タイム(JIT)												
	所要計画・予約注文を活用した協業モデル、 所要計画を活用した協業モデル												
預託取引	コンサイメント	社内運用											CBC-0030 コンサイメント協業モデル
		社外倉庫											松下電器産業ニーズ(国際VMI)
	倉庫事業者預託(JEITA-VMI)												倉庫事業者預託モデル <ul style="list-style-type: none"> CBC-0040 預託受発注 CBC-0050 倉庫事業者標準納品システム CBC-0060 倉庫事業者在庫通知

コンサイメントモデルの位置付け(3)

コンサイメントモデル(Draft)の範囲

	計画情報	個別契約	出荷業務				在庫管理				
			所要供給	予約注文	確定注文	出荷指示	出荷タイミング	受注者業務の委託先	受渡場所(所有権移転)	受注者在庫の預託先	倉庫事業者の使用
通常取引	納品代行										
	ジャスト・イン・タイム(JIT)										
	所要計画・予約注文を活用した協業モデル、 所要計画を活用した協業モデル										
預託取引	コンサイメント	社内運用									
		社外倉庫									
	倉庫事業者預託(JEITA-VMI)										

従来の受発注情報種で対応可能(運用方法次第)

CBC-0010 所要計画と予約注文を活用した協業モデル
CBC-0020 所要計画を活用した協業モデル

新コンサイメントモデル
(松下電器産業ニーズ(国際VMI)を包含する)

倉庫事業者預託モデル [CBC-0040 預託受発注
CBC-0050 倉庫事業者標準納品システム
CBC-0060 倉庫事業者在庫通知

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

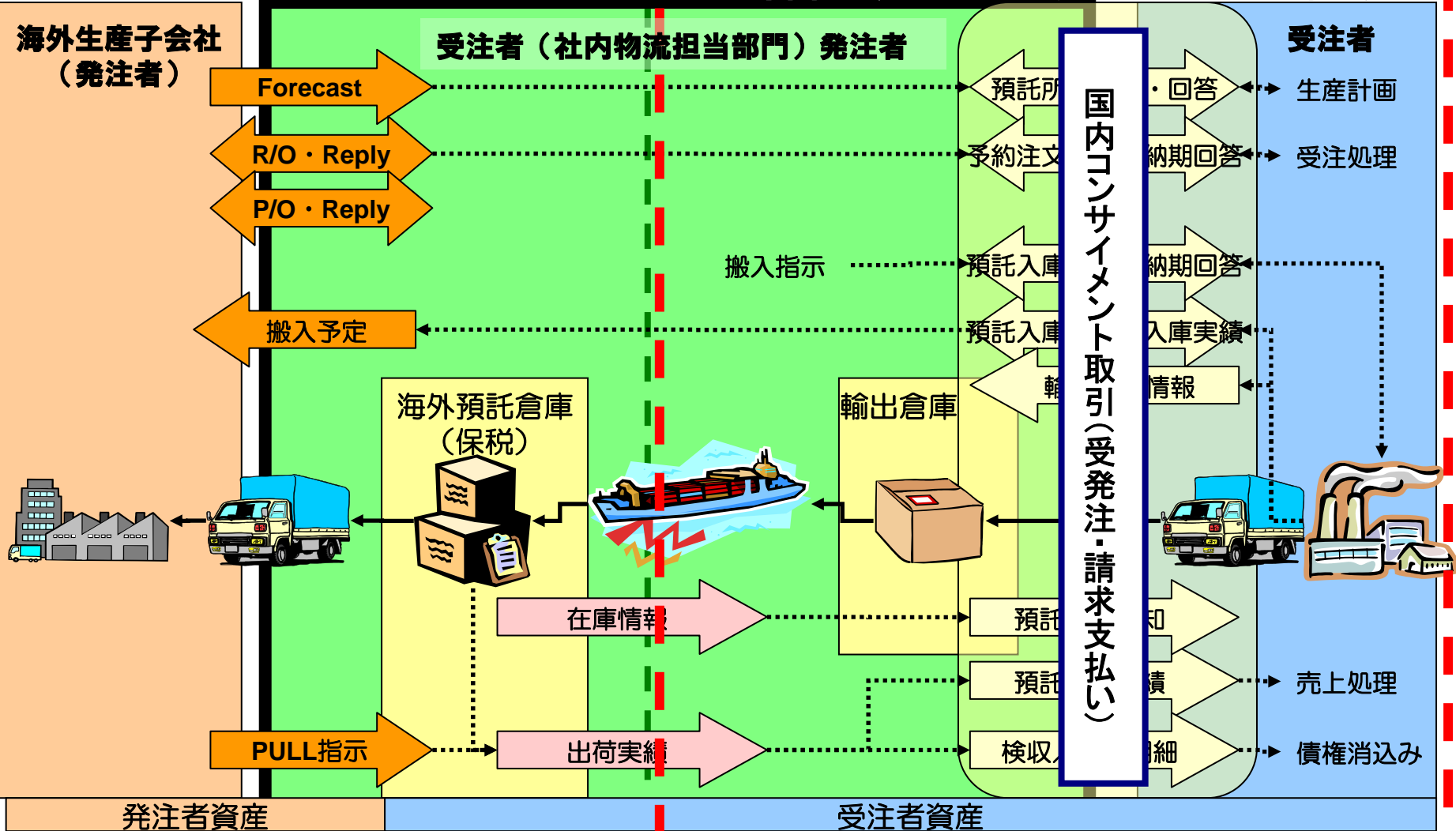
事例概要(1)

概略フロー

今回の対象範囲

海外 (EDIFACT)

日本国内 (JEITA/ECALGA標準)



事例概要(2)

- (1) 海外生産子会社は社内物流担当部門へ資材発注
⇒ EDIFACT準拠
- (2) 社内物流担当部門が国内受注者と受発注を行う
⇒ JEITA/ECALGA標準準拠
2007年5月リリースの「コンサイメントモデル(Draft)」
⇒ 海外製造子会社は国内受注者へ直接発注は行わない
- (3) 受注者は社内物流担当部門指定の輸出倉庫へ物品を入庫
 - ・社内物流担当部門は預り資産として管理
 - ・輸出入(通関手続、輸送等)は社内物流担当部門にて行う
- (4) 海外生産子会社からのPull指示により出荷
 - ・出荷時点で売買が成立する

『社内物流担当部門』とは国内における海外生産子会社からの調達代行および輸出入業務を行う弊社内の部門

事例概要(3)

◆社内物流担当部門を活用した国際VMIの取組

- ・海外生産子会社の視点では
社内物流担当部門を受注者としたVMI取引
- ・国内受注者の視点では
社内物流担当部門を発注者としたコンサイメント取引
(社外倉庫)

国内取引の範囲においては
『コンサイメントモデル(Draft)』を応用して
受発注システムを構築

※今回の事例は大手受注者を対象

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

企業ニーズ

(1) 市場ニーズ変化対応力の強化

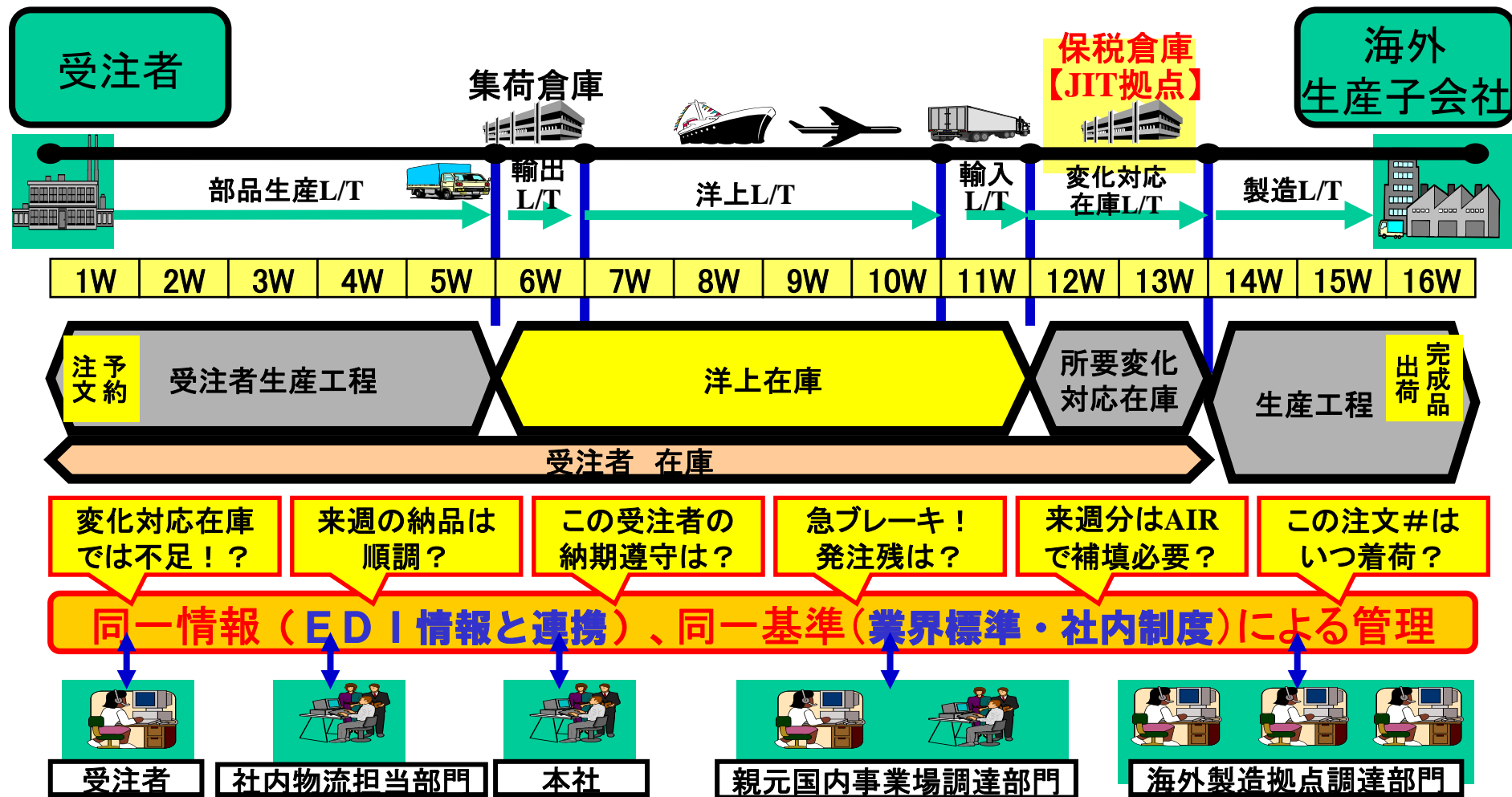
- ・注文した材料について『今どこに、どのような状態』であるのかの把握が困難
 - ⇒ 物品の確保を優先し、結果不要なものを発注
 - ⇒ 情報精度の低さから、結果ラインストップ発生

(2) 材料在庫の適正化

- ・不要、不急在庫のZero化による棚卸し資産の健全化
- ・JIT納品実現による材料在庫の極小化

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

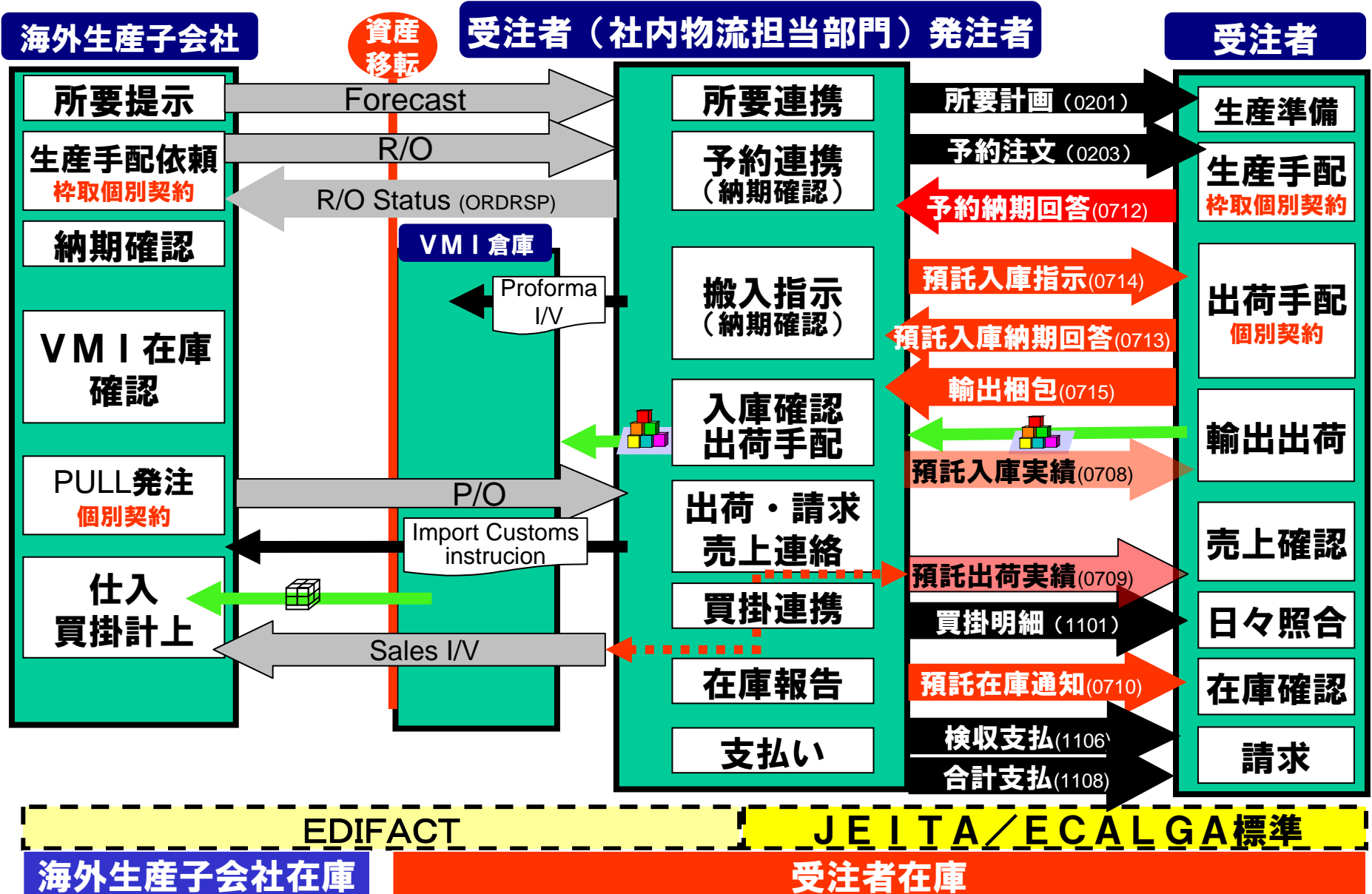
EC標準を使ったソリューションの狙い



- ・「発注状況一元管理」で市場変化に連動した調達管理
- ・市場デマンドに連動した根拠のある在庫管理

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

ビジネスモデル(1:EDIフロー)



ビジネスモデル(2:実装したBD) 1/2

情報の種類 (BD名称)	CII情報		eb-XML情報		新設	改訂	発⇄受	実装
	情報区分	バージョン	BD-ID	バージョン				
所要計画情報	0201	2E	BDS0190	V2006A-R01			→	○
預託所要計画情報	0205	2K	BD-0220	V2007D-R01		○	→	—
預託補充計画情報	0206	2K	BD-0230	V2007D-R01		○	←	—
予約注文情報	0203	2H	BDS0220	V2006A-R01			→	○
予約注文請け情報	0204	2H	BDS0230	V2007A-R01			←	—
予約納期確認情報	0711	2K	BD-0540	V2007D-R01	○		→	—
予約納期回答情報	0712	2K	BD-0550	V2007D-R01	○		←	○
注文情報	05XX	2H	BDS0210	V2007A-R01			→	—
注文請け情報	0506	2F	BDS0240	V2006A-R01			→	—
納期確認情報	0701	2E	BDS0270	V2006A-R01			→	—
納期回答情報	0702	2E	BDS0280	V2006A-R01			←	—
送品案内書	—	—	BD-0080	V2006A-R01			受→倉	—
ECALGA-Jラベル	—	—	BD-0240	V2006A-R01			受→倉	—
預託入庫指示情報	0714	2K	BD-0570	V2007D-R01	○		→	○
預託入庫納期回答情報	0713	2K	BD-0560	V2007D-R01	○		←	○

ビジネスモデル(2:実装したBD) 2/2

情報の種類 (BD名称)	CII情報		eb-XML情報		新設	改訂	発⇄受	実装
	情報区分	バージョン	BD-ID	バージョン				
預託在庫予定情報	0707	2K	BD-0260	V2007D-R01		○	←	—
預託在庫実績情報	0708	2K	BD-0270	V2007D-R01		○	→	△
輸出梱包情報	0715	2K	BD-0580	V2007D-R01	○		←	○
預託出荷指示情報	0706	2K	BD-0070	V2007D-R01		○	発→倉	—
預託出荷実績情報	0709	2K	BD-0280	V2007D-R01		○	→	△
検収情報	0901	2H	BDS0350	V2006A-R01			→	—
預託在庫通知情報	0710	2K	BD-0250	V2007D-R01		○	→	○
買掛明細情報	1101	2H	BDS0420	V2006A-R01			→	○
検収支払情報	1106	2G	BDS0460	V2006A-R01			→	○
合計支払情報	1108	2G	BDS0470	V2006A-R01			→	○

※BDのフォーマットについてJEITA/ECALGAでは
XMLフォーマットとCIIフォーマットをサポートしているが
今回の事例はCIIフォーマットで実装
⇒ 既存EDI基盤の有効活用

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

輸出梱包情報作成事例(1)

◆ 預託入庫指示情報に基づき輸出梱包情報を作成する場合の事例

【前提条件】

- (1) 単独梱包(発注者にてコンテナ詰する)を想定
- (2) 基本は1件の預託入庫指示情報に対し、1件の輸出梱包情報を作成
 - ・但し、受注者都合による分割は認める。
⇒ 入庫日が2日以上に跨る、原産国が異なる、入数が異なる等
 - ・2件以上の預託入庫指示情報を1件の輸出梱包情報にまとめることは禁止
- (3) 預託入庫指示情報の内容

預託入庫指示番号	発注者品名コード	希望納期	数量
N0001	BUY_HINMEI01	12/12	20,000

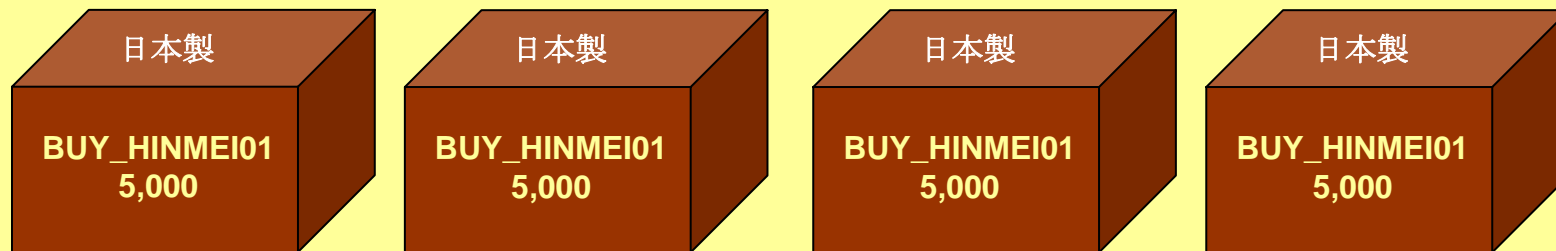
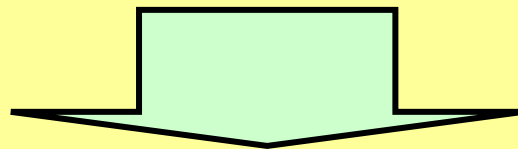
- (4) 受注者が入庫する際の梱包単位

標準輸出梱包単位	最小輸出梱包単位
5,000	2,500

輸出梱包情報作成事例(2)

◆標準輸出梱包で一括在庫する場合

預託在庫指示番号	発注者品名コード	希望納期	数量	標準梱包	最小梱包
N0001	BUY_HINMEI01	12/12	20,000	5,000	2,500



5,000個 × 4箱で一括在庫

$$\text{輸出梱包数量} = \text{入数} \times \text{梱包箱数}$$

輸出梱包情報

輸出 梱包 番号	入庫 予定 日付	入庫 指示 番号	分納 回数	品名 コード	輸出 梱包 数量	数量 単位	荷姿	入数	梱包 箱数	原産 国	総重 量	正味 重量	容積	縦寸	横寸	高さ
001	12/11	N0001	1	...	20,000	PC	CB	5,000	4	JPN	10.5	10	8	2	2	2

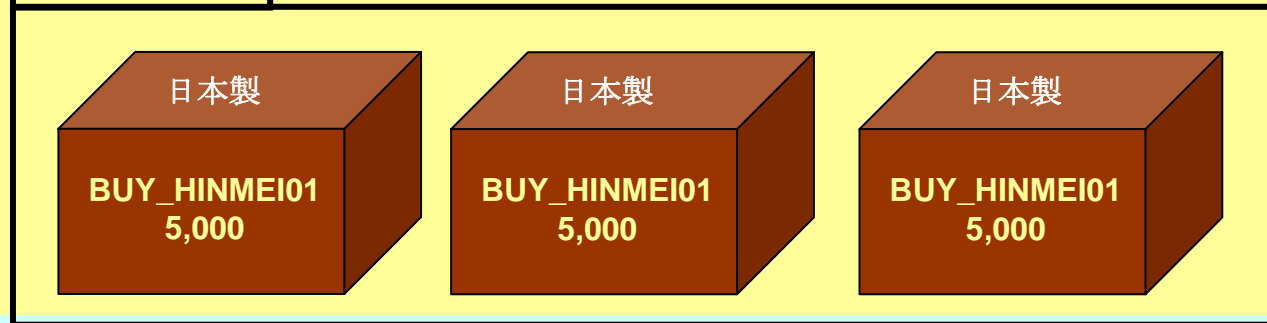
輸出梱包情報作成事例(3)

◆2日に跨って分割在庫する場合

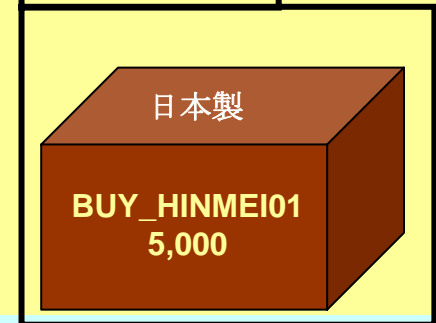
預託在庫指示番号	発注者品名コード	希望納期	数量
N0001	BUY_HINMEI01	12/12	20,000

標準梱包	最小梱包
5,000	2,500

12/10入庫



12/11入庫



5,000個 × 3箱を12/10に、残り5,000個 × 1箱を12/11に入庫

$$\text{輸出梱包数量} = \text{入数} \times \text{梱包箱数}$$

輸出梱包情報

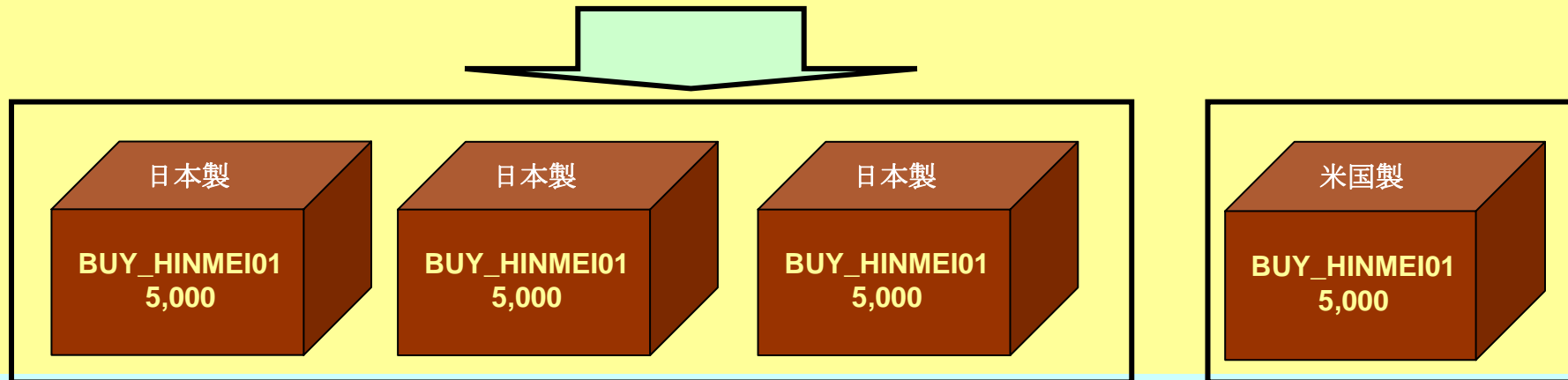
輸出梱包番号	入庫予定日付	入庫指示番号	分納回数	品名コード	輸出梱包数量	数量単位	荷姿	入数	梱包箱数	原産国	総重量	正味重量	容積	縦寸	横寸	高さ
001	12/10	N0001	1	...	15,000	PC	CB	5,000	3	JPN	7.8	7.5	3	2	1	1
002	12/11	N0001	2	...	5,000	PC	CB	5,000	1	JPN	2.6	2.5	1	1	1	1

輸出梱包情報作成事例(4)

◆原産国違いで同一日に分割在庫する場合

預託在庫指示番号	発注者品名コード	希望納期	数量
N0001	BUY_HINMEI01	12/12	20,000

標準梱包	最小梱包
5,000	2,500



5,000個(日本製)×3箱を12/10に、残り5,000個(米国製)×1箱も12/10に在庫

$$\text{輸出梱包数量} = \text{入数} \times \text{梱包箱数}$$

輸出梱包情報

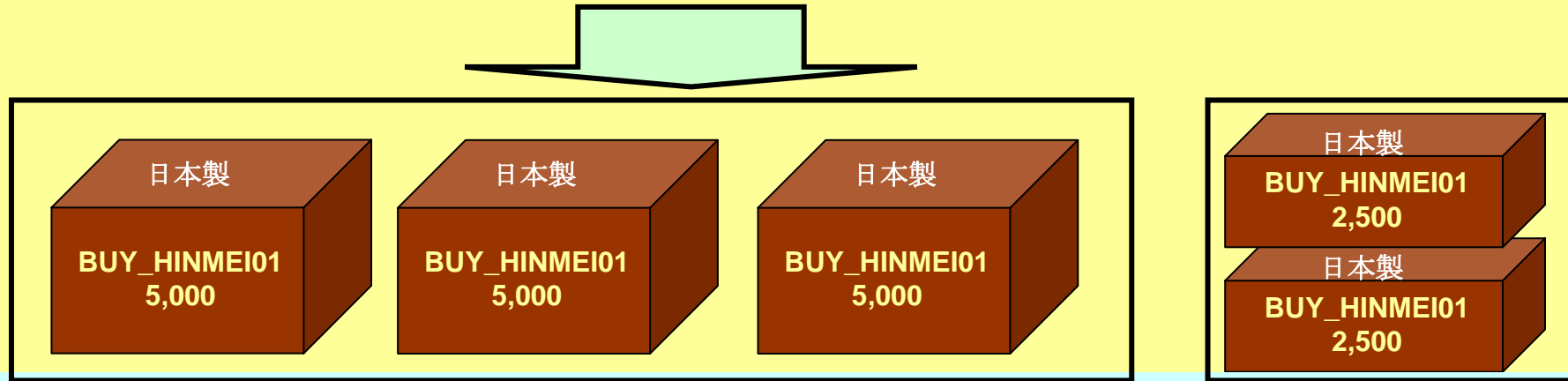
輸出梱包番号	在庫予定日付	在庫指示番号	分納回数	品名コード	輸出梱包数量	数量単位	荷姿	入数	梱包箱数	原産国	総重量	正味重量	容積	縦寸	横寸	高さ
001	12/10	N0001	1	...	15,000	PC	CB	5,000	3	JPN	7.8	7.5	3	2	1	1
002	12/10	N0001	1	...	5,000	PC	CB	5,000	1	USA	2.6	2.5	1	1	1	1

輸出梱包情報作成事例(5)

◆入数違いで同一日に分割在庫する場合

預託在庫指示番号	発注者品名コード	希望納期	数量
N0001	BUY_HINMEI01	12/12	20,000

標準梱包	最小梱包
5,000	2,500



5,000個 × 3箱を12/10に、残り2,500個 × 2箱も12/10に在庫

輸出梱包数量 = 入数 × 梱包箱数

輸出梱包情報

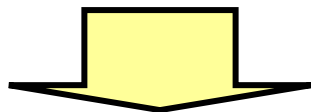
輸出梱包番号	入庫予定日付	入庫指示番号	分納回数	品名コード	輸出梱包数量	数量単位	荷姿	入数	梱包箱数	原産国	総重量	正味重量	容積	縦寸	横寸	高さ
001	12/11	N0001	1	...	15,000	PC	CB	5,000	3	JPN	7.8	7.5	3	2	1	1
002	12/11	N0001	1	...	5,000	PC	CB	2,500	2	JPN	2.8	2.5	1	1	1	1

1. コンサイメントモデルの位置付け
2. 事例概要
3. 企業ニーズ
4. EC標準を使ったソリューションの狙い
5. ビジネスモデル紹介
6. 輸出梱包情報作成事例
7. 今後の課題

今後の課題

(1) JEITA/ECALGA標準としての課題

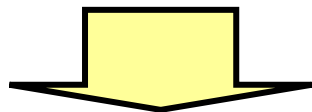
今回の取り組みはDraftに基づいている



正式な標準書の発行

(2) 松下電器GとしてEDI実装面についての課題

一部実装を行う予定で実装を延期したBDがある



ビジネスシーンの想定と実装時期の検討

ECALGA

ご清聴ありがとうございました